

復讐奇談

安積沼

3146
2



3146
2

死靈物語 復讐言安積沼 卷之二



東都

山東庵京傳著
門人 拜田近牛校

第三條

穂積丹下感孝義贖少年事

并 游俠二見村西開稱宜町事

稱宜町の男娼家何來ハ房州小湊誕生寺へ系縁して久るるに
喜次郎と買得られハ正是這義童ハ高祖菩薩の場我家の
揺銭樹ありとていふ。むらぐ男娼の趣と学ばるべしとていまだ
密と接させども心をもらひて其の源稱宜町玉川千
之壺とていふ。優あり。河内通とていふ。狂言とていふ。その名も
うる女且あり。は者偶在次郎とていふ。此少年義親といふ。伶俐といふ。

安積沼

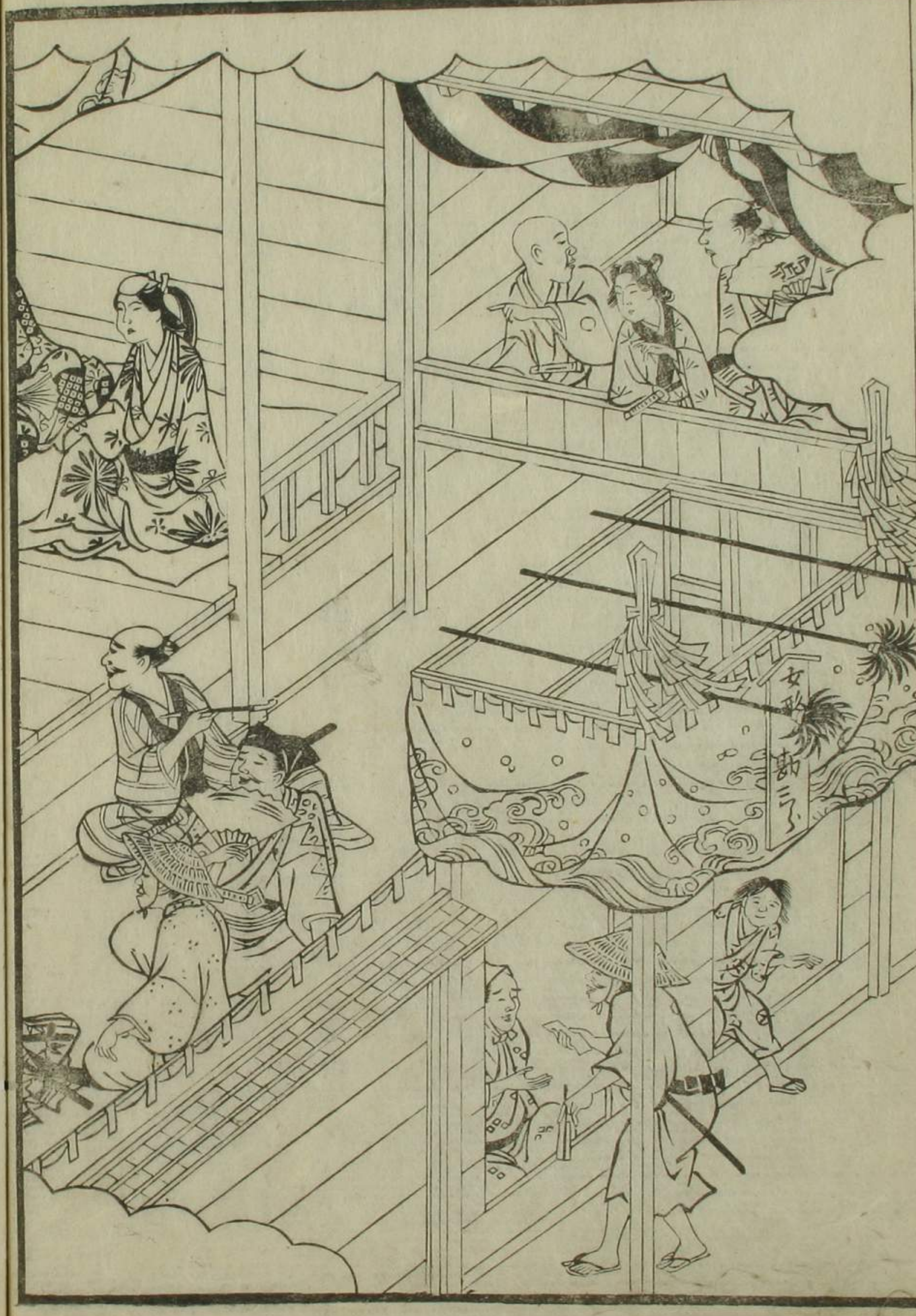
卷之二

一

ユ、ロカニ

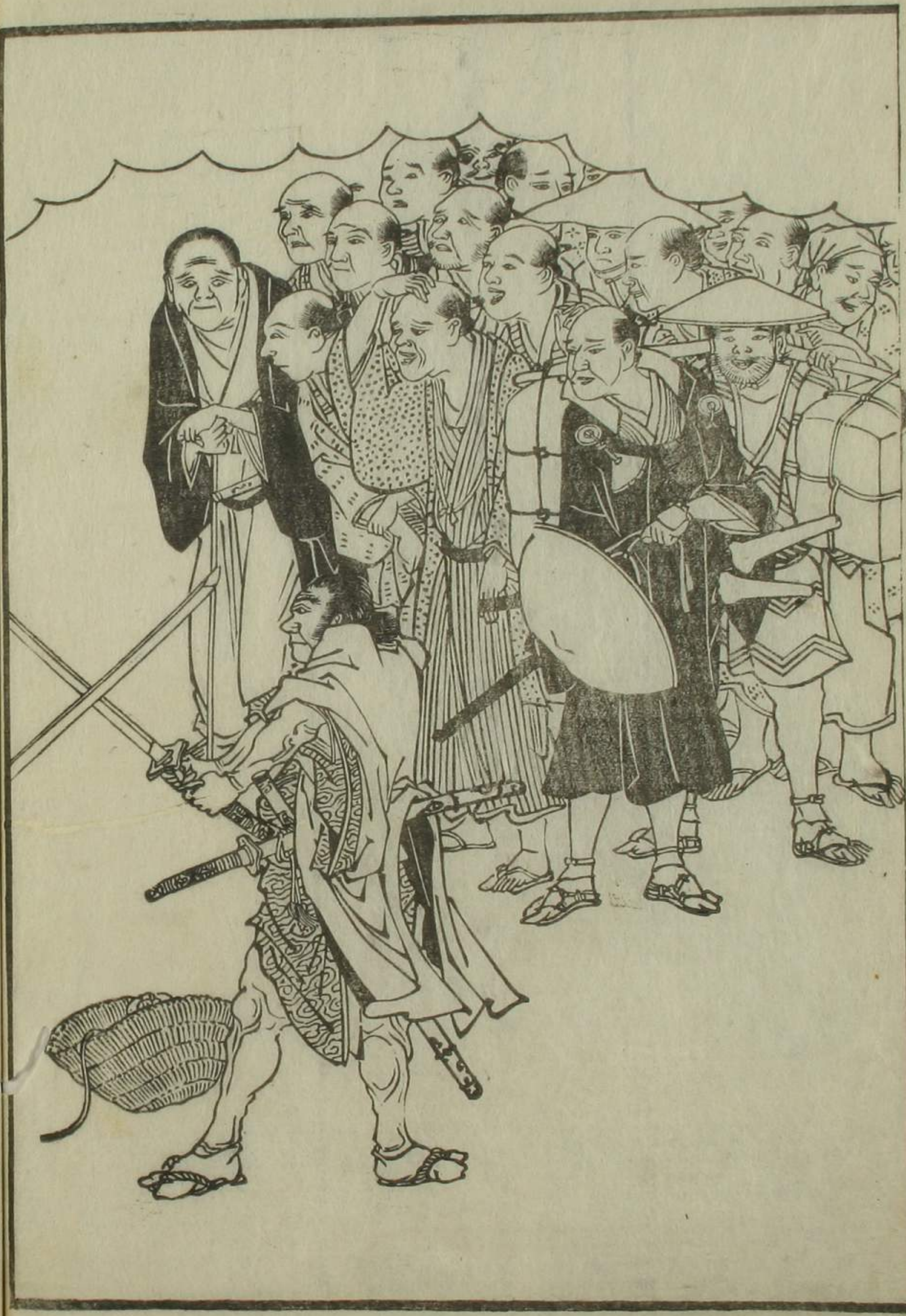
も有り。氣^き傳^つ頭^づ中^{ちゆう}に目^めを^をり^りと^と知^ち。小^こ太^た夫^ふ麻^ま子^しの六^{ろく}尺^{じち}袖^{そで}と^とら^らり
て。と^とる^るの^の裸^{はだか}の^の鉛^{えん}の^の袷^{あはせ}と^とつ^つけ^ける^る手^て弱^{じやく}女^{によ}も^も有^あり^り或^{ある}は^はみ^みげ^げ既^{既に}中^中
と^と繪^えか^かと^とぐ^ぐひ^ひま^まを^をひ^ひさ^さう^うづ^づ。面^{おもて}の^のか^かり^り階^{かゝり}浪^{なみ}の^のご^ごと^とに^に瘦^{やせ}と^とる^る男^{おとこ}。う^うの
松^{まつ}と^と松^{まつ}虫^{むし}の^の声^{こゑ}に^にひ^ひね^ねり^りあ^あげ^げて^て。ん^んど^どお^おの^の床^{とこ}と^とあ^ある^るが^が。堂^{どう}の^の燈^{とう}の^の光^{ひかり}
あ^ある^る声^{こゑ}と^と編^{あみ}笠^{がさ}と^とて^てこ^こい^い勤^{けん}五^ご兵^{べい}衛^ゑと^とぬ^ぬり^りを^をう^うふ^ふも^も有^あり^り。何^{なに}と^とい^いハ^ハ松^{まつ}
脂^{あぶら}の^の墨^{すみ}に^に頬^ほ髭^{ひげ}を^をつ^つく^く。角^{かく}錐^{すゐ}の^の大^{おほ}脇^{わき}差^さと^と圓^{まる}の^の本^{もと}に^に佩^{かぶ}て^て。る^る羽^う織^おと^とる^る。
獬^{さい}虎^この^の皮^{かわ}巾^{きん}差^さほ^ほと^とう^うく^くに^にう^うつ^つを^をさ^さも^も有^あり^り。是^{これ}等^らハ^ハ所^{ところ}奴^{やつ}の^の誼^ぎ喉^{のど}と^と愛^{あい}
あ^あま^まる^る軍^{ぐん}あ^ある^るべ^べ。伊^い勢^せ編^{あみ}笠^{がさ}近^{ちか}江^え菅^か笠^{がさ}と^とあ^あら^ら一^{いち}文^{ぶん}字^じの^のと^とい^いつ^つく^く
の^の目^めと^とさ^さ笠^{がさ}羽^う織^おを^をう^うれ^れま^まあ^あれ^れが^がう^うら^らに^にう^うつ^つり^りも^も有^あり^り。婦^ふ人^{にん}ハ^ハか
づ^づき^き綿^{わた}帽^{ぼう}を^を扮^は粧^{じやう}も^も異^{こと}あ^あり^りて^て容^{よう}姿^さを^をと^とて^てあ^あの^のど^どか^かう^うべ^べ。お^おの^のが^がさ^さあ
く^く集^{あつ}り^りと^とり^り。真^{まこと}是^{これ}耳^{みみ}目^めを^をあ^あぐ^ぐう^うに^にべ^べき^き。警^{けい}昌^{しやう}あ^あり^り。丹^{たん}下^げハ^ハか

るあ^あぎ^ぎり^りひ^ひも^も心^{こゝろ}を^をぬ^ぬく^く。む^むと^と喜^{よろこ}次^じ高^{たか}に^にあ^あら^らん^んり^りと^との^の欲^{よく}。一^{いち}
り^り知^ちれ^れ。誼^ぎ喉^{のど}あ^あり^りと^とう^うら^らり^りて^て諸^{しよ}人^{にん}奔^{ほん}走^{そう}。俄^{たち}に^にさ^さり^りが^がり^りル^ルバ^バ。
あ^あら^らん^ん歩^{あし}と^とさ^さめ^めて^てら^らん^ん。人^{ひと}あ^あの^のか^か押^{おし}と^とう^うら^らり^りあ^あら^らん^ん。異^い風^{ふう}に^に扮^は粧^{じやう}あ^あり^り
武^ぶ士^し兩^{りゆう}人^{にん}あ^あり^りて^て竹^{たけ}中^{ちゆう}ん^ん争^{そう}論^{ろん}の^の形^{かたち}も^も有^あり^り。一^{いち}個^こハ^ハぬ^ぬり^りま^まら^らの^の羽^う織^おと^とて^て。
そ^そう^うの^の較^{かく}靴^{くつ}の^の兩^{りゆう}刀^{とう}と^と佩^か。白^{しろ}草^{そう}の^の袴^{はかま}も^もく^くら^らと^とて^てさ^され^れ。一^{いち}個^こハ^ハ白^{しろ}ぐ
ま^まの^の袖^{そで}べ^べう^うと^とう^うら^ら羽^う織^おを^をと^とて^て朱^{しゆ}鞘^{せう}の^の兩^{りゆう}刀^{とう}と^と佩^か。幸^{さい}清^{せい}が^が時^{とき}繪^えの^の二^に刀^{とう}銃^{じゆう}
と^とあ^あひ^ひぬ^ぬ。其^{その}に^に熊^{くま}谷^や笠^{がさ}と^とま^まぶ^ぶら^らん^んて^て伊^い達^{たつ}風^{ふう}流^{りゆう}の^の扮^は粧^{じやう}。づ^づれ^れり^りあ^ある^る人^{ひと}と^とら
ん^んえ^えぬ^ぬ。ば^ばあ^ある^る争^{そう}論^{ろん}に^につ^つの^のて^て。刀^{とう}の^の尻^{しり}と^とう^うら^らぬ^ぬり^りく^く。は^はら^らり^りに^に柄^{つら}と^とあ^あぎ
て^て。あ^あら^らん^んを^をふ^ふみ^みや^やし^し。声^{こゑ}も^もく^く。黒^{くろ}言^{ごん}り^りが^が。編^{あみ}笠^{がさ}と^とか^かう^うと^とて^て。刀^{とう}を^を
ぬ^ぬいて^てら^らり^りと^とお^お合^あい^いと^と個^こハ^ハ是^{これ}ら^ら残^{ざん}髪^{かみ}も^も有^あり^り。一^{いち}個^こハ^ハ是^{これ}額^{ひん}と^とぬ^ぬき^きあ
げ^げ。兩^{りゆう}人^{にん}が^が刀^{とう}と^とぬ^ぬき^きと^とつ^つて^て。松^{まつ}尾^びも^も有^あり^り見^み物^{ぶつ}の^の徒^と人^{にん}と^とよ^よ刀^{とう}と^とぬ^ぬき^きと^とぞ



彼二人の長士。うら孫髪なる村西困ふと云者あり。顔言
 ぬきつら二見重たつと云者あり。共小浪人あて使者のかりたり。彼
 美少年の原喜次郎といひ。今ハ玉川歌仙といふ優か年あり。彼
 容のうつくしきに似ぞ。膽ふと云者あり。彼がこゝれ大徳小市ら
 どんばいりぞあつく。猛き者どもと云者あり。武士もあ
 びね魂あり。二見村西等かそむりの徒まわすをげし大子と云れ
 べくゆひつら。さハあつてこゝろかまきりゆるこそ。おしひあるは如の幸
 事といひて。少年と讃らるる。丹下ハくさくさの茶店小ありてこれを
 笑果然喜次郎あること公知りて。ん中まきりゆると云。今日ハ
 あられ。明日あつてまきりゆると云。昨日ハ且旅宿小ありぬ。びとらひ
 六方男達と云者あり。あつて谷一組の異名あり。鶴鶴組。鉄

棒組。唐大組。筑籬組のといひ。神祇組の白柄吉屋風のつら。或
 ハ茶筥立餐の異風と好む。東叡山の花の肉三流の夜の更なり。金
 龜山の朝嵐。泥町の雪の日も時と云らるる。のさざりありき。鞘あて袴と
 がらにこゝろをてや。もと行ハ争論と惹出。技折羅狼藉のこを
 こゝして。市街小受も者あつたり。彼二見村西のあ人も。び六方の軍
 かりり。かくて丹下ハ。翌日と云らるる。び鉢置町にいら。玉川千之丞が
 家と云らる。歌仙も對面せんことをもむ。おつ。歌仙家もあ
 ちて。まきりゆる。まに秘見の一礼ありてのち。丹下いそ。我ハ遠
 の者あり。まに對し。と云らる。こゝろありて。やうらうらと云らる。の
 ありつ。卒赤あわれど別に困る。知あつらう。あひまへ。と云。歌
 仙ハ。おしひ。ぬき。まきり。丹下。人品かむらりの人にあつらる。



えて。うやくく礼をあり。別の知ふものありゆきて坐さざりけ
 きた。丹下ハ娘む曼見ガ繪次女を志して病にあはるる。觀者
 の告ふよりて関東小トリ房州よりて。菱川出會し。くじき
 物語をきては知ふと。子本し。こもを始終と詳に説き。と贖て
 大和國にもろい飯り。娘とめあはせて家をつぎまき。心底を
 告。おのれが家のそらめお。び山林田庄の救のあま。娘が
 年ごろ容姿のつめくう。ぬまてのころあ。語りせせり。歌
 仙ハ丹下ガ厚ま志を。感涙を押し。てい。かく。ゆさ。め
 けり。り。我をさ。な。り。憐れ。せ。あ。ふ。り。何と。以。て。これ。報。け
 らん。と。い。ひ。貴家の奴僕と。あり。擔と。挑。履。を。把。と。も。我。身。に。そ。り
 て。い。こ。も。き。幸。あり。お。あ。せ。の。み。み。か。速。に。う。け。ひ。さ。ゆ。る。き。所。か

とも。愛。れ。や。む。こ。を。得。が。幸。あり。て。權。涉。志。不。ま。さ。ひ。か
 う。と。い。ひ。丹下。が。い。ろ。く。我。言。と。う。け。い。れ。が。と。き。と。の。い。れ。と
 何。み。す。れ。つ。ま。を。説。く。り。お。あ。ふ。べき。計。あ。ら。ぬ。我。速。よ。お
 こ。あ。べ。い。お。仙。が。い。ろ。く。これ。別の。事。に。ゆ。ら。ど。菱。川。が。お。い
 め。て。さ。あ。て。ま。み。ひ。つ。らん。我。祖。母。并。に。父。夷。雲。平。と。い。者。み。これ
 て。非。命。に。死。を。あ。ら。の。と。あ。ら。ど。家。室。の。靈。劍。と。う。づ。る。我。は。仇。を
 報。て。父。身。が。修。羅。の。妾。執。と。し。と。う。ん。と。曾。其。志。ハ。あり。お。ら。る。人。も。賣
 さら。ぶ。身。あ。れ。る。心。の。信。は。お。あ。ひ。ぐ。く。父母。の。雙。言。も。共。小。天。と。戴
 ころ。の。こ。ら。り。れ。い。と。さ。て。唯。切。齒。交。牙。校。と。志。の。び。て。む。か。く。月
 日。と。あ。ら。る。あり。は。志。を。遂。げ。ら。う。ら。い。今。に。ま。さ。ひ。ぐ。く。と。ら。丹
 下。お。ら。る。子。と。して。父。の。雙。言。と。報。い。だ。れ。ハ。子。小。あ。ら。ど。と。公。羊。傳



雲散て一鞠の皎月現出さるごとくにちびりて日あけど病全快
りりれば父母のよろこびがらあつたれようの唯お仏が宿志と
ぐるおと俟侘て一佛出世二佛上天の事いひとぞあつる

第四條

鯉 鱧 太郎兵衛 小鱧 小平次 事

并 了然 禪尼 相波 門説 因縁 事

かくて歌仙の丹下が厚志およりて。おと贈れはさ。今ハ心安
し。さといひ仇人天に路ありて上り。地に門ありて入るも我一
念の誠をもちて探せし。速に頭とりて父等が冤魂を
慰まべし。かくおまにるる人ハ一日も志のびがしと。おまを
おひりれども仇人いづれに逃れや。おまをうらも心あてられ
せんともや。且吉日とあらびて元服し。本姓と名告る仇人

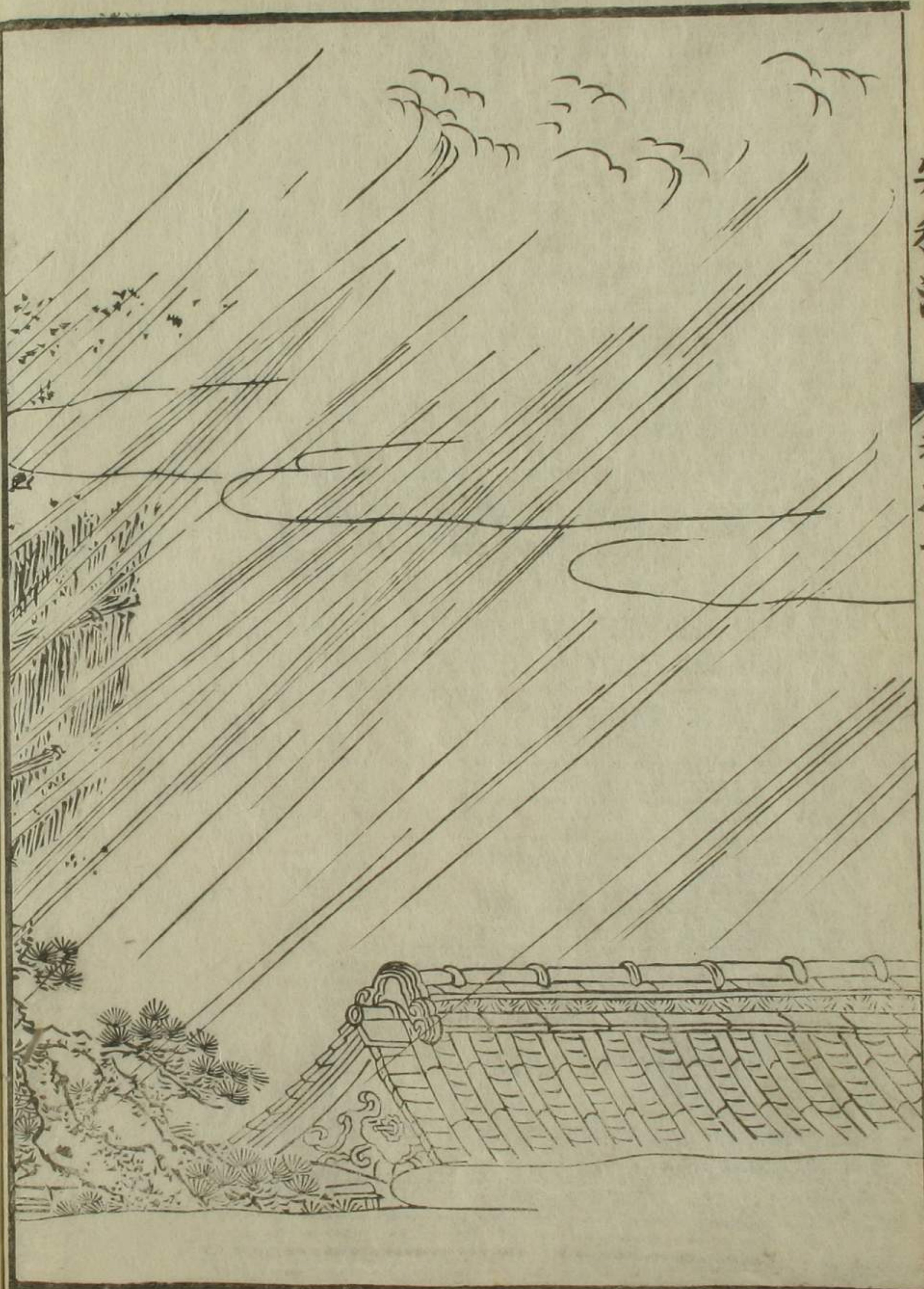
おそれとあまんとおそれ。姓名と更て山井波門とを叫び。あ
るに彼村西園心二見重た承つて。おまを二人お仏が元服あつり
と定て一日おまを。さうの酒者とおまを。おまを。おまを。おまを。
と。おまを。おまを。おまを。おまを。おまを。おまを。おまを。
て講解し。事ありおまを。おまを。おまを。おまを。おまを。おまを。
京師大東宗教が流儀の一節截れ。高三隆達が小おとあはを
ることと専らおまを。おまを。おまを。おまを。おまを。おまを。
きて一節截とよくおまを。仇人とおまを。おまを。おまを。おまを。
後殿前と人所に。家と索て獨居し。一節截りとおまを。
おまを。おまを。おまを。おまを。おまを。おまを。おまを。おまを。
おまを。おまを。おまを。おまを。おまを。おまを。おまを。おまを。
おまを。おまを。おまを。おまを。おまを。おまを。おまを。おまを。



安積

卷之二

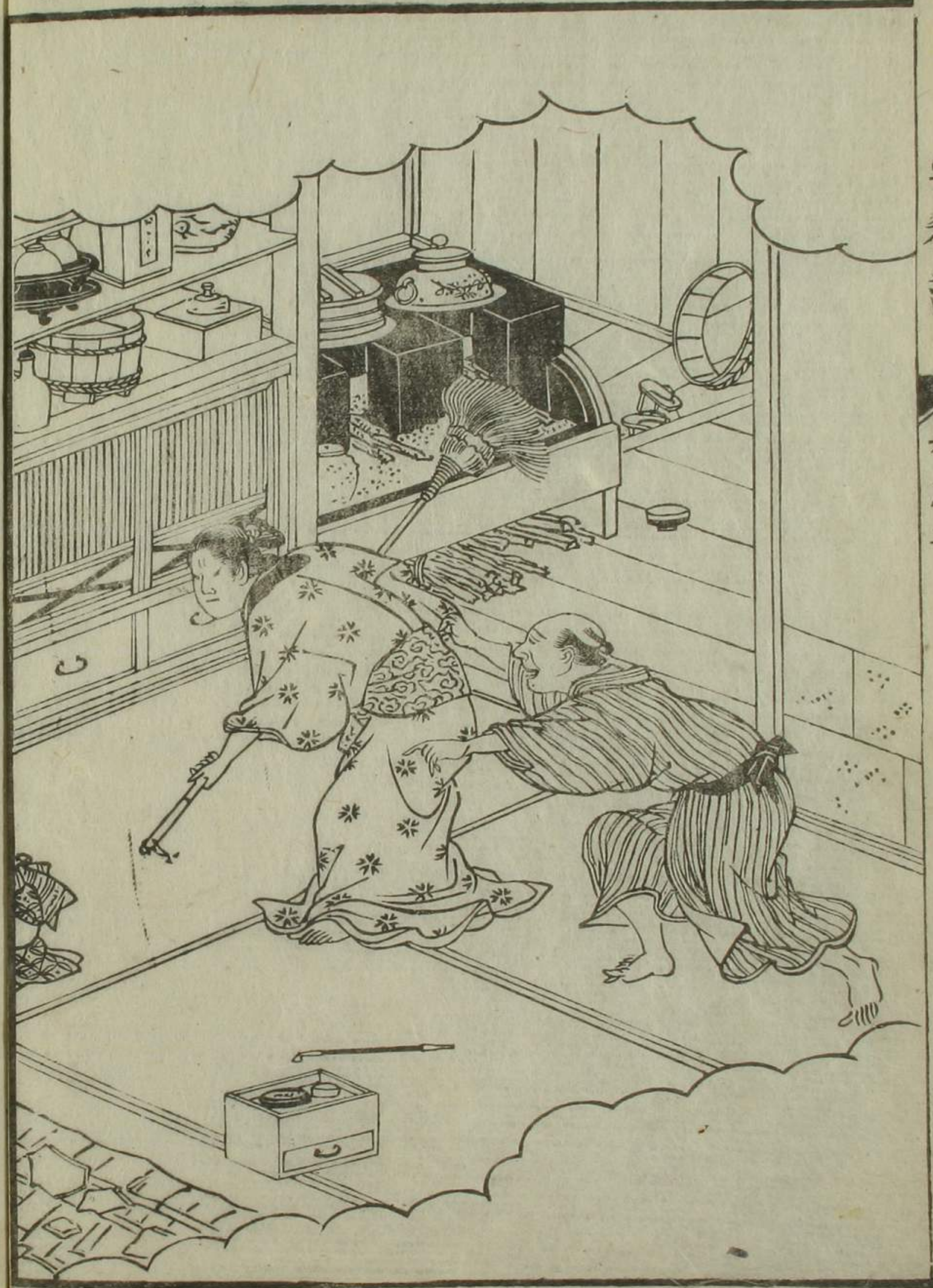
三



安積

卷之二

三



得^て布^の而^し擒^ら

得^て布^の而^し脱^る

抑^ん才^の後^の来^のの禍^を福^と吉^と凶^とは八字^のの寸^の中^にあり。よりくくは母^のをえ
 て忘^るるべ^くびと^りの波^の門^ハ不^然のこ^とを^も尽^く心^理に^的中^をう^れば。
 大^に感^嘆一^再三^拜謝^{して}よろこ^び茶^と羹^をて^まめ。自^ら燈^火を
 か^こゆ^きて。禪^尼の衣^をあ^がり^かへ^うか^どて^いと^ゆん^ごろ^に
 歎^待た^れば。不^然も被^が表^のあ^りき^小や^めで^けん。懐^と探^り一^ツの香^を
 包^とら^し出^して^いら^く。これ^ハ我^の首^宮中^に仕^へ一^時君^{より}賜^りこ
 る薰^物あり^人死^にあ^んく^く一^絶入^一する^も。ば香^の氣^鼻中^に
 一^時一^度蕪^生の奇^特あり^て漢^武の返^魂香^徳哥^が返^魂白^檀
 香^もも^まま^まの^の名^づも^て零^陵甦^醒香^と拈^ど天^竺ふ^ハ
 多^揚羅^とつ^南越^志に鷺^草芸^香と^いひ。淮^南子^に芸^草ハ^死

と^以て^生に^復へ^とある^ハ乃^は靈^香あり^少一^をワ^らち^て抑^ん才^にあ^ら
 べ^一後^日抑^のつ^うう^とこれ^をり^らる^時あら^ん必^しも^等閑^に焚^失ふ^と
 され^とつ^ひて^あら^れば。波^門益^感謝^{して}これ^を接^とり^らる^に
 ち^ややく^雨中^み空^をれ^らば。禪^尼ハ^別を^告て^まう^らぬ。拈^ば不^然
 尼^とら^ひ京^師の^人葛^山氏^の女^とて大^肉小^はや^どり^本と^いひ一^女房^{あり}
 あり。君^をれ^をむ^ひて^後は^と辭^{して}教^小あ^じが^替姻^のこ^と紙^の媒^{あり}
 志^られ^る子^ニ三^人も^うみ^かい^とぬ^とあ^れと^約して。松^田何^樂と^云医^師
 の^目と^いひ嫁^しゆ^とい^けう。二十^ハ六^歳の^時まで^に男^女と^人の^子と^うみ^{され}
 ば。夫^に志^する^をと^いひつ^ひに^髪と^おり^一衣^と傑^臨濟^黄檗^の諸^禪林^に入^りて。參^道ひ^るあ^くつ^とあ^ら後^に戸^{より}り^木庵^の中^に子^白翁^道
 春^和尚^が豹^邊の^庵と^いふ^て法^と受^んこ^とふ^もと^あら^ん。

て出^いあひあ^くく^くありて。江戸小^と居^らう^ら八^ひ日^ひく小平次が家^いにゆきし。
いらの頃^{ころ}う^らく小平次が妻^{つま}と共^{とも}通^として。よりく被^かれ^れが晴^はら^らい^いて
密^{ひそ}會^{くわい}し^しるが素^{もと}小^こ平^{へい}次^じハ純^{まこと}三^{さん}考^{かう}され^れが。夢^{ゆめ}小^こも^もこれ^を知^しら^らざ^ら
けり

安積沼卷之三畢

